

X-4 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA）

1 概要

バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌（VRSA : Vancomycin resistant *Staphylococcus aureus*）は、バンコマイシン（VCM）に耐性を獲得した黄色ブドウ球菌である。低感受性のものは、バンコマイシン低感受性黄色ブドウ球菌（VISA : Vancomycin intermediate *Staphylococcus aureus*）という。これらのブドウ球菌はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）であることがほとんどで、VCM 以外の抗菌薬にも耐性を示す。

2 感染経路

- (1) 接触感染：VRSA/VISA が付着した手指などを介して、感染者から他へ感染する。院内では医療従事者の手指や医療器具を介して感染する経路が最も重要である。
- (2) 経口感染：感染者の便尿に排出された VRSA/VISA が他へ経口的に感染することもある。

3 院内感染対策

(1) 対策の基本

標準予防策に加えて接触感染予防策をとる。

(2) 患者配置

- ① 当該病棟での個室管理を原則とする。
- ② 個室収容が不可能な時は、ひとつの病室に集めて管理（コホーティング）する。

(3) 防護用具の使用

- ① 入室時に装着する必要がある防護用具（手袋・エプロン）のマグネットを病室入口に掲示する。
- ② 個室隔離している病室へ入室する場合、入室直前に手指衛生実施後、処置やケアの種類に関わらず必ず手袋とエプロンを装着する。
- ③ 病室内出口付近に、感染性一般廃棄物用の専用ゴミ箱を設置する。
- ④ 病室を出る直前に防護用具を脱ぎ、感染性一般廃棄物用の専用ゴミ箱に廃棄し、手指衛生を行う。

(4) 器具の専用化

- ① 聴診器や血圧計、体温計は患者専用とする。
- ② 病室内にワゴンを入れないなどの工夫を行う。

(5) 外来受診、検査、リハビリテーション

外来受診、検査（放射線検査、生理検査など）、リハビリテーション等により他部門の職員が患者に接触する場合は、事前に検出菌および必要な対策の連絡を行う。

(6) その他の対策

- ① 使用後のリネン類は、標準予防策に準じて取り扱う。
- ② 患者が退室した後の病室は通常の清掃用洗剤・クリアパワーで充分清掃する。

4 患者、家族への説明

- (1) 主治医は患者、家族に対して、菌の検出状況、感染のリスク等について説明する。
- (2) 説明の際、患者、家族の不安を取り除くと共に、拡大防止への理解と協力が得られるよう説明、指導する。

《主な説明内容》

- ・ 耐性菌の検出について、また必要な感染経路別予防策を実施すること。
- ・ 面会により、面会者が感染症を発症することは通常ないこと。
- ・ ケアへの参加がなければ、マスクや予防衣を着用する必要はないこと。
- ・ 退室時に手指衛生を行うこと。
- ・ 面会者は面会后、最短の通路で病院を出ること。
- ・ 複数の患者に面会する場合は、耐性菌検出患者の順番を後にすること。

(3) 面会人への注意

- ① 病室の入退室時、手指衛生を行う。
- ② 面会者はマスク、エプロン等の着用は必要ない。患者ケアに参加する場合は、着用が必要である。

5 VRSA・VISA 消失（解除）判定基準

VRSA は高度耐性菌であるため、退院時まで隔離を継続する。